

校訓	盡己	令和5年度学校通信 「松中だより」 第8号	発行日	令和5年6月 8日
教育目標	未来を創造、たくましく生きる生徒の育成 ～地域・家庭とのつながりによる レジリエントな学校を目指して～		発行者	伊丹市立松崎中学校 校長 今井 克己

1, 3年生 宿泊行事終了

5月25日(木)、26日(金)に1年生の林間学校が滋賀県近江八幡市で行われました。降らず照らずのちょうどいい天候で、予定のプログラムはすべてこなすことができました。

また、5月31日(水)から6月2日(金)には3年生が修学旅行を行いました。2日目、3日目は雨に降られた時間もありましたが、平和学習や班別学習など各班の計画に従って学習を進めました。

また、昨年9月に開業した西九州新幹線初の団体臨時列車使用ということで、長崎の方々に歓迎いただきました。帰りの山陽新幹線が大雨の影響で2時間半ほど遅れ、22:00頃の帰校となりました。多くの保護者の方に迎えに来ていただきました。ありがとうございました。

さて、修学旅行も林間学校も普段と違う環境の中で、仲間の様子や、行事を支えてくださった方々の気持ち、集団生活の中でわかったことなど、新たな気づきがあったと思います。行事は終わりましたが、中学校生活はまだまだ続きます。それぞれの2日間、3日間を自分で振り返り、学校生活につなげてもらいたいと思います。



月刊 2023年(令和5年)6月1日 木曜日 紙面編集・川口みゆき

ふるさと 経済

修学旅行向け初の貸し切り便

西九州新幹線(武雄温泉～長崎)の修学旅行向け貸し切り臨時列車が31日、初めて運行された。県や長崎市などの関係者30人が、長崎市のJR長崎駅で中学生ら300人を歓迎した。

西九州新幹線

県観光連盟によると、活動の際、西園寺の昨年度の同新幹線の修学旅行利用実績は41回で延べ197人、本年度も38回1903人が予定している。31日に同新幹線で来崎した長崎県伊丹市立松崎中学校は、修学旅行で本県を予定している。貸し切り臨時列車は、開業前の旧在来線特急で運行実績があり、県観光連盟が修学旅行誘致果や定時性、パリアフリー

本県観光関係者が歓迎

「今のメリットから幹線を選んだという。今井校長は、乗り換えもスムーズで非常に便利。開業間もない新幹線への乗り体がイベントとなり、生徒も喜んでいました。」

貸し切り臨時列車は年度内に数回の利用予定がある。県観光連盟の中山洋・営業部長は「本県まで新幹線で移動してもよければ、地元バス会社の利用につながる経済効果もある」として、今後も新幹線利用促進力を入れる考えを示した。(六倉大輔)

地元紙にも紹介されました。
長崎新聞 2023.6.1

「知之者不如好之者、好之者不如樂之者」 (論語)

「これを知る者はこれを好む者に如かず。これを好む者はこれを楽しむ者に如かず。」と読みます。

意味を思いっきり簡単に言うと

学問において

知るよりは、好き、が上。

好きより、楽しんでいる方が上。



ということです。(「好き」と「楽しむ」の違いは、「好き」は思いや感情で、「楽しむ」は行動です。)

成績をもっとあげたいと思ったら、やみくもに知識を詰め込むのではなく、まず勉強を好きになる(思う)こと、そして勉強を楽しむ(行動する)ことです。

つまり

何かを上達させたかったら、それを心から楽しむこと。

楽しむためには、どうしたらいいのかを考え、工夫すること。

です。

このことは、松崎中学校が目指す「主体的な学び」の1丁目1番地であり、生徒の皆さんも、私たち教員もしっかり考えていかなければならないなと思っています。

そういえば……

今、松中に来ている教育実習生に「なぜ、教員になろうと思ったか？」を聞いてみました。

いくつかの理由の中に

「英語や体育の教科の楽しさを伝えたい。」

という理由がありました。とても大切なことだと思うと同時に、教科の楽しさを伝えられる、いい先生になってもらいたいと思いました。頑張ってください。

